

看護学専攻・精神保健学専攻【共通科目】

高齢者ケアサービス論 担当教員名 生野 繁子	少子高齢社会では高齢者ケアサービスはどのように展開されているのかを、介護保険法・老人福祉法等を根拠とするケアサービスと、地方自治体のフォーマルサポートの現状を論じ、少子高齢諸外国の例と比較する。また、高齢者ケアサービスチームにおいて看護職のケアコーディネートのあり方や、ケアの対象である高齢者の視点を活用する看護やケアサービスシステムについて教授する。
医療統計学 担当教員名 原田 幸一	看護・福祉学分野等の疫学調査研究や実務作業を遂行するうえで得られるデータを統計学的手法による処置が必要となる場合がある。また、関連分野の論文などを検索するときに統計学的理解が求められる。本授業では、疫学調査研究や実務作業の遂行そして関連論文の統計学的記述の解釈に必要な統計学的基础知識の習得ならびに理解を可能とすることをねらいとする。
ヘルスケアシステム論 担当教員名 徳永 淳也	国民医療費の高騰と情報化推進などを背景として、医療・保健・福祉サービスは複雑化、高度化が顕著であり、サービスの質保証と効率的提供という2つの視点の重要性が再認識されている。ヘルスケアは、医療関係体制や医療(保険)制度などの社会的枠組み(システム)の中で生産、消費されるサービスであり、システムが個々のサービス提供過程に介入し管理する度合いは益々高まるものと考えられる。本講義では、ヘルスケアシステムの管理的諸側面について、具体的課題提示とその問題理解のための特徴的論点を先行研究の紹介を踏まえて講義する。また、質保証の視点から重要な各種アウトカム指標とそれらに寄与すると考えられる総合的質管理(TQM:Total Quality Management)について紹介し、当該領域における質に関する具体的問題解決能力ならびに実践的研究能力の涵養をはかる。

看護学専攻【共通科目】

看護教育論<オムニバス> 担当教員名 大池 美也子・原田 広枝	(1)授業設計および授業方法、評価に関する考え方を学び、看護教育に必要とされる授業・演習・看護実践等の指導過程を研究的に思考する。(2)行動主義モデルを中心とした教育から自主性を育む教育的学習を理解し、ケアリングを基盤とした看護の教育方法について学ぶ。(3)専門職の成長・発達に貢献できる学習経験の本質への問いを引き出すために、リフレクションを基盤とした教育方法を考察する。
看護管理論 担当教員名 横山 利枝	看護管理学としての組織・看護と経営・リーダーシップ、教育(スタッフ能力開発とスーパービジョン)、看護業務の効率と効果、意志決定などの臨床実践能力を構築するための理論や技術を体系的に学び、看護管理学に関する知識と研究能力および実践能力を高める。
看護倫理<オムニバス> 担当教員名 阿蘇品 スミ子・小島 操子 浅井 篤	看護現場における倫理的判断のよりどころとなる倫理上の基本原則ならびに看護者の倫理綱領、患者の権利等について理解を深める。専門看護師(上級実践者)として、看護実践および看護研究の倫理的課題、葛藤の事例展開を通して倫理的判断能力および関係者間における倫理的調整能力を養う。
コンサルテーション論 担当教員名 宇佐美 しおり・永田 千鶴	コンサルテーションのタイプ、モデル、プロセスを理解し、高度看護実践家に必要なコンサルテーションの理論と技法の修得をめざす。また状況や場面に応じたコンサルテーションの活用方法についても教授する。
看護哲学 担当教員名 森田 敏子	(1)看護実践のための看護理論の歴史の変遷と発展(形成と体系化)の過程を理解する。(2)卓越した看護実践の基盤となる看護における諸理論と看護現象との関係について理解する。(3)看護専門領域への看護理論の批判的吟味による活用について見解を持つ。(4)看護および医療、闘病生活に関するビデオ視聴による看護観の形成と理論との関連性を深化する。
看護政策論 担当教員名 荒木 紀代子	保健医療福祉制度は、社会・経済的要因を背景に絶えず調整されて、その時に必要な制度・政策が作られる。疾病構造の変化、少子・高齢化、ライフスタイルの多様化の中で保健医療福祉制度改革が行われており、看護政策は大きな転換期を迎えている。講義では、今まさに必要とされる看護政策のあり方について、理論、歴史、実証の3つの面から考察し、看護の発展的立場に立って看護政策の提言に資することを目指す。

看護学専攻【専門科目】 基礎看護学分野

基礎看護学論 担当教員名 柴田 恵子	患者・看護者の援助関係を中心に、看護における倫理性に関する論考を深めるための基礎知識を教授する。また、援助関係における倫理的な問題・葛藤、関係者間での調整といった具体的解決を行うために必要となる知識、技術についても討論し意見交換を行なう。看護基礎教育をはじめとし看護学の根本問題を整理し論考するために必要となる手法を修得する。
基礎看護学演習 担当教員名 柴田 恵子	看護の倫理、哲学に関連する分野の国内及び海外文献を検索し最新情報を得ることで演習での討議材料とし、研究の方法を修得する。看護における基礎的、根本的諸問題について論点はどこに依拠するのか検討し、論理的思考に基づいた論述の方法を修得する。
基礎看護学研究 担当教員名 柴田 恵子	研究課題を明確にして、研究手法を用いて論文を作成し、発表する。その過程を通して研究の基礎的能力が身につくようにする。看護実践における患者と看護者の関係、特に看護者の看護の仕方（哲学、思考、感情、言動等の総合的認識および看護における倫理に関する問題、行動について）を分析、解釈、考察し、論文化する能力を修得する。
看護病態機能学論 <オムニバス> 担当教員名 樋口 マキエ・志賀 潔	対象をその地域に生活する人間として統合的に把握し、正常な生体機能に連続したものとして病態をとらえ、科学的根拠に基づく看護・保健活動を指導できるよう教授する。論理的な看護実践の基盤となる、正常と異常の生命現象および生体の内的外的環境の変化に対する制御機能について、諸理論および研究方法を教授する。正常生体機能と病態機能との違いを、特に糖尿病、虚血性疾患、心不全、高血圧等の生活習慣病について展開する。これらを基礎疾患として持つ生体の機能は変化している。その原因となる各種臓器の構造、虚血病態、および内因性（情報伝達物質）外因性生理活性物質（薬物）への反応の違いを、微小循環およびエネルギー代謝面より論説する。
看護病態機能学演習 担当教員名 樋口 マキエ	病態機能学に関する国内および外国文献を検索し、研究の経過と共に最新情報を得る。各人は興味をもった原著論文（和文・英文）を抄読し、論文の構成を学ぶと共にその主旨を理解し説明する。また、看護に関連する病態機能研究方法について討議し、生理学的、生化学的および組織学的機能の変化を測定・評価する各種の実験研究方法を習得させる。
看護病態機能学研究 担当教員名 樋口 マキエ	看護病態機能学の研究の過程における”ものの見方・考え方”の訓練は、看護独自の研究・理論を展開し得る基礎的研究能力を培うと共に看護現場で対象者への観察を深め、問題解決の方法へと導く。研究テーマに適した研究方法を用いる。(1)糖尿病等の基礎疾患下における各種臓器・組織の虚血病態（機能変化、微小循環障害、エネルギー代謝異常等）と生理活性物質・薬物の作用の変化に関する実験研究を通して、生活習慣病患者の体内環境の変化と薬物療法・自律神経緊張の影響を検討する。(2)人間を対象とする研究では、各種のストレスの病態に及ぼす効果について、自律神経活性とその日内変動に関連させて検証する。潜在性ストレスの程度を自律神経機能の変動より検証し、看護介入時の看護の質を検討する。(3)これらの研究を通して、実証・評価の方法、研究の進め方やまとめ方を身につけさせる。

看護学専攻【専門科目】 臨床看護学分野

成人看護学特論 担当教員名 (未定)	成人期に遭遇する各種疾患の罹患患者における心理的危機、ストレス・コーピング、セルフケア、家族ケア、ソーシャルサポート、ネットワークなどに関する理論を理解し、そしてその実践応用への基礎力を養成する。
成人看護学演習 担当教員名 (未定)	成人期患者の看護実践にあたって基盤となる看護理論の理解と応用力養成のため、既存の研究結果、文献講読、事例検討を通じて習得し、看護ケアを効率よく提供できるような実践力を養成する。
成人看護学研究 担当教員名 (未定)	受講生の研究テーマに沿った文献、資料を選定し、その研究テーマの背景を充分吟味して、研究課題の意義、目的を明確にし、研究計画を策定する。その研究過程において対象の取り扱い、方法の吟味、結果の評価を通じて、論理的思考、論旨の展開の仕方を学び、論文作成に助言し修士論文を完成させる。
がん病態生理学 オムニバス 担当教員名 齋田 和孝・二塚 信 阿蘇品スミ子・石原 和子 坂田 研明	がんの発生と予防に関する基礎知識、がんの各種治療法に伴う病態生理及びがんの進行に伴う身体的変化としての病態生理を系統的に理解し、がん看護の実践者およびスタッフナースの相談者・教育者として必要な基礎的知識を身につける。さらに、がん看護の研究や変革的役割を担うために必要な、がんにおける生物学としての考え方の基礎を学ぶ。

がん看護理論 担当教員名 石原 和子	がん看護に関連する理論的文脈の中で理論、実践、研究の関連性について教授する。がん看護に関連するパラダイム、主要理論・概念の学習を基盤に、がんの予防から治療そして終末期までのがん患者と家族のQOLに適用できる理論と研究結果の実践への導入について教授する。
がん看護学理論 <オムニバス> 担当教員名 阿蘇品 スミ子・齊田 菜穂子	がん看護の特定領域（化学療法看護、放射線療法看護、造血幹細胞移植療法看護）における、診療に伴うインフォームド・コンセント（病名・予後告知、診断、治療の選択）、治療、症状緩和に伴うアセスメント、看護援助法ならびに医療チームにおける役割を探求する。加えて、がん看護専門看護師の役割開発について具体的事例の展開ができるように教授する。
がん看護学理論 <オムニバス> 担当教員名 石原 和子・坂元 敦子	がん患者の全人的な視点で、相互に交流する関係性の援助過程を通して身体的・心理的・社会的・霊的（スピリチュアル）な問題の理解を深め、がん患者と家族の擁護者および支援者としての看護援助を教授する。
がん疼痛看護・緩和ケア学 オムニバス 担当教員名 阿蘇品 スミ子・志茂田 治 成清 優子	緩和ケアの概念を理解し、がん患者の痛みは、身体的・心理的・社会的・霊的（スピリチュアル）な全人的な痛みであり、がん患者の疼痛アセスメントを的確に把握できるように教授する。がん性疼痛の発生機序を理解し、がん性疼痛に適切に対処できる。麻薬性鎮痛薬、鎮痛補助薬の使用法およびその副作用への知識を深め対処できる。薬物療法とともに、補完・代替療法などを用い創意工夫をこらすと共に、がんと共に生きる対象者の生活の質（QOL）の向上へ対処できるように教授する。
がんリハビリテーション看護学 担当教員名 石原 和子・坂元 敦子	“それぞれの環境のなかに生きる個々人が、がんによって課せられた限界のなかで最高の機能を成し遂げられるように援助するプロセス”（ONS 1989）というがんリハビリテーションの定義に沿って、直面することを援助する、参画することを援助する、再構築することを援助する、意味を見いだすことを援助するという4つの視点から専門的知識と具体的援助論について教授する。
がんターミナル看護学 担当教員名 阿蘇品 スミ子	がんターミナル期にある患者に生ずる全人的な苦痛を理解し、その人の生活を通して苦痛を緩和し、生活の質（QOL）を向上させるように支援し、その人らしい最期を迎えられるように支援できるように教授する。家族に対しても、心理的支援、危機への対応、予期的悲嘆・死別後の悲嘆に対する支援が出来るように教授する。社会に対しては死の準備教育並びに、がんターミナルケアにおける緩和ケアチームの調整を基盤として、がん看護専門看護師の役割開発ができるように教授する。
がん看護学課題研究 担当教員 阿蘇品 スミ子・石原 和子	がん看護学実践において、各自が見いだした課題について、がん看護学の理論と実践を統合して、研究枠組のプロセスにそって研究論文を作成する。がん看護実践に寄与できる論文としてまとめる。更に課題研究を通して、上級がん看護実践者として必要な研究能力を修得する。
がん看護学実習 担当教員 阿蘇品 スミ子・石原 和子	臨床において上級がん看護実践者として必要な知識と的確な判断および技術と倫理的感性に基づいた実践能力を養うと共に、身体的、心理的・社会的、霊的（スピリチュアル）な困難な問題に直面する事例の看護過程の展開を通して、がん看護における上級がん看護実践者としての役割開発を含む専門分野の実践を行う。
がん看護学演習 担当教員 阿蘇品 スミ子	(1)大学院生は各々に、自分の研究関連分野における興味を持った原著論文を（和文・英文）抄読により、論文構成を学ぶと同時にその趣旨、方法、考察、結論に関して説明報告し、討議する。(2)がん看護、終末期看護に関する研究方法について討議し、質的・量的な研究手法を習得する。
がん看護学演習 担当教員名 石原 和子	がん看護の特定専門領域において、がん看護専門看護師および認定看護師の指導・教育を踏まえて、院生が関心あるテーマを選定し文献レビューのレポートを作成する。文献レビューの結果を通して、院生はがん看護研究の的を絞り、研究課題を明確にすると共に研究計画書を作成することができるようになる。演習を行う。 がん看護の特定専門領域：化学療法看護、放射線療法看護、造血幹細胞移植看護、がんリハビリテーション看護、予防・早期発見など。
がん看護学演習 担当教員名 齋田 和孝	「がん看護・医療」に関して、特にがん治療における病態生理と看護に関連した研究分野の原著論文を抄読することにより、がん治療と看護における発展と研究の経緯を学び、最新情報を得る。また、論文の趣旨や考察、結論を理解し説明すると同時に、その論文における問題点や課題などについて各個人で考察し討議する。これらの論文抄読を通して、研究方法や研究の進め方、論理的な考え方の基礎的能力を習得する。

がん看護学研究 担当教員 阿蘇品 スミ子	院生は研究分野から自分の研究テーマを明確にして、文献・資料の検索・収集を行い、論文作成や発表をすることにより、研究の基礎的な能力を身に付ける。研究テーマの決定や研究の進め方については、担当教員と十分に協議して、学習進行中適宜指導を受ける。最終的には修士論文を作成する。
がん看護学研究 担当教員名 石原 和子	理論は研究のためのアイデアの源泉となり、研究は理論の価値を評価しさらに新しい理論のための基盤となる。がん看護に関連するパラダイム、主要理論・概念の学習・教育を踏まえて、先行研究論文(量的研究論文、質的研究論文)を検索し、文献リストを作成する。院生は文献リストの研究論文から自分の課題研究に即して、研究論文の論評レポートを作成し、論評結果のプレゼンテーションを行う。
がん看護学研究 担当教員名 齋田 和孝	現在行われているがん治療と看護における問題点を考察し、研究課題を明確にする。特に、がん治療にかかわる病態生理とがん看護との関連性に重点をおきながら研究を進めることによって新たな知見を得る。研究における成果の解釈・評価や考察を通して、討議および論文作成と発表を行い、がん看護学研究における論理的な思考能力を習得する。それと同時に、臨床においても応用可能な、考える看護を実践するための基礎的な能力を養う。
小児看護学特論 担当教員名 梶原 和子	成長発達や健康上のさまざまな問題を抱えている子どもとその家族に対して、問題解決に向けてのアプローチおよび evidence based nursing の実践や展開の方法について教授する。また子育て不安や地域の子育て能力の低下などを背景に、近年急増している子ども虐待等の社会問題を取り上げ、それらに対応すべき看護のあり方及び役割について検討する。
小児看護学演習 担当教員名 梶原 和子	小児看護学特論で学んだ視点を基軸として、子どもの健やかな育ちをサポートし、エンパワメントしていくための方法について検討する。具体的には、対象とする事例や集団についてフィールドでのインタビューやリサーチ分析を通して抽出した問題点や課題に対する解決過程について演習する。

看護学専攻【専門科目】 老年看護学分野

老年看護学特論 オムニバス 担当教員名 生野 繁子・山本 恵子	高齢者を生活として理解するとともに、ケアニーズを持つ高齢者に対して、ライフサイクル上においても自宅・地域と病院・施設という生活の場においても連続した視点でとらえ、障害の原因となる疾患・予防・看護の最新の知見、高齢者ケアに関する政策・資源、高齢者ケアにおけるジェンダーの影響について、日本と高齢社会各国の現状を比較検討する。
老年看護学演習 オムニバス 担当教員名 生野 繁子・山本 恵子	介護保険法導入後の老年看護や、在宅における家族介護および高齢者と家族の価値観の変化や、保健医療福祉連携のために看護職に求められる役割、高齢者の介護予防やエンパワメントに必要な看護実践、生活障害を残しやすい疾患のリハビリテーション看護が病院や施設においてどのように展開されているのかを演習する。
老年看護学研究 担当教員名 生野 繁子	少子高齢化が進展するわが国において、家族観や高齢者ケアに対する価値観の変化を理解し、高齢者ケアに関する保健・医療・福祉連携、高齢者ケア施設における看護職の役割、高齢者ケアと介護保険法、介護保険サービスに対する利用者の評価、地域の高齢者ケアにおけるジェンダーの影響などに関する看護事象について、特論と演習での学びを基に研究し論文を完成する。
老年看護学研究 担当教員名 山本 恵子	病院・施設から在宅まで、幅広い高齢者ケアの中でも病院・施設に焦点をあて、職種間協働のあり方や生活援助、リハビリテーション看護、転倒予防に関するテーマの研究支援を行う。

看護学専攻【専門科目】 地域看護学分野

地域看護学特論 オムニバス 担当教員名 福本 久美子・久佐賀 真理 二塚 信・名原 壽子	歴史的資料や先駆的な活動事例から、地域看護活動の本質を探究し、地域看護の専門職としてのあるべき姿を再認識し、地域看護の将来展望を抱く。さらに、全ての人々が生涯を通じ、健康的な生活を営むために、ヘルスプロモーションの視点に基づく地域看護活動の方法と地域看護職の役割について、様々な健康課題における保健師活動、及びパートナーからみた保健師活動への提言を通して探求する。
--	--

<p>地域看護学演習</p> <p>担当教員名 福本 久美子・久佐賀 眞理</p>	<p>関心のある公衆衛生看護の領域（地域保健・産業保健・学校保健・在宅ケア）と対象（個人・家族・集団・地域）を選定し、対象、健康問題の特性、ニーズアセスメントと支援方法について、国内外の文献を系統的に検索し、研究の流れと最新情報を整理する。さらにフィールドでのインタビューを通して情報を収集し、実践の改善や開発のための課題を見出し、課題解決のための研究方法について検討する。</p>
<p>国際保健学特論 オムニバス</p> <p>担当教員名 秦 亮・二塚 信</p>	<p>現在、世界の中では健康の水準に国や地域によりかなりの違いや格差がみられ、それは保健医療サービスの格差や社会開発の程度と強い関連がある。この種々の違いや格差について、それを測定する指標として何が適切であるか、その格差をどう評価するか、格差が生じた要因は何であるかについて論じる。そのなかでは、保健医療の観点だけでなく、広く経済発展との関連や、文化的、歴史的な観点なども加えて論じる。そして、具体的な事例を基礎に、格差解消のための方策について、国際機関や政府関係機関の役割、NGOの役割、途上国の責務も含めて検討する。</p>
<p>国際保健学演習</p> <p>担当教員名 二塚 信・稲岡 司</p>	<p>特論で学んだ観点を基本にして、途上国の重要な課題を取り上げる。特に、人類生態学及びプライマリヘルスケアの考え方を学び、リプロダクティブ・ヘルス、小児保健、感染症、生活習慣病等の具体的な課題について、その実態を明らかにし、解決の方策を考えるためのアプローチを論じる。必要に応じて、担当教員あるいは学生の途上国における調査研究の経験、国際医療協力の経験を通して、その具体的な事例について、方法やまとめ、評価・総括等々について検討する。</p>
<p>国際保健学研究</p> <p>担当教員名 二塚 信</p>	<p>特論及び演習で学んだ知識と技術を基礎に、修士論文を作成する。まず、先行・関連文献をきちんと読み、理解し、総括するなかで学生の問題意識を高め、目的を明確にする。その目的を達成するためのプロトコール（研究計画書）作成を行う。調査研究対象（該当国・地域）を特定し、調査研究の方法を検討し、質的調査・量的調査・調査内容及びカウンターメジャーの協力体制、データのまとめに至る一連の過程に見通しをつける。この段階で予備調査を行ない、必要な手続きを完了した後本調査を行なう。得られた資料の統計処理、解析・評価を行ない、論文の作成・提出を行なう。</p>